

6 月に入り、気象庁が梅雨入りの発表をし始めました。もうそんな頃かと、ふと、カレンダーを見ると、6 月は、祝日が 1 日もないことに気づかされました。そのせいか、どこか憂鬱になってしまう今日この頃です。皆さんは、いかがお過ごしでしょうか。



先日、書店で、「雨のことば辞典」（編著 倉嶋厚・原田稔 講談社学術文庫）という本を見つけてきました。

この本のまえがきには、日本は欧米に比べて傘の年間の需要本数が約 3 倍もある「傘大国」であること、日本人の暮らしと雨との関係は特に深く、日本は四季を通じて雨の多い国であること、変化に富んだ気象の中で、繊細に傘を使って雨と折り合う国民であること、そのために日本には雨のことばが特に多いとのこと…などが、興味深く書かれてありました。

そして、本文には、220 ページ以上に渡って、「雨」をあらわすことば、「雨」にまつわることばが満載でした。ちょうど今ごろの「雨」を表す言葉も多彩で、面白いと感じました。今回は、その中のいくつかを、ご紹介します。



「紫陽花の雨（あじさいのあめ）」は、紫陽花の花をぬらして降る雨で、雨が似合う花。

「蔭の雨（ふきのあめ）」は、蔭の葉にふりかかる雨で、大きな葉をたたく雨音は豪快。

「青葉時雨（あおばしぐれ）」は、木々の青葉にたまった雨水が、不意に落ちてくる現象。

このように、千変万化する雨のさまざまな姿をとらえた日本の雨のことばは、私たちに、四季のうつろいの中にいろいろな風情を感じさせてくれる気がします。

古来、日本人は潤沢な、しかし変動の大きい、災害と恵の両方を持つてくる雨と付き合いながら暮らしてきました。とは言え、気象庁は、豪雨で土砂災害や洪水の危険性が予想される際、生き残るための行動を 5 段階表示する「大雨・洪水警戒レベル」の運用を始めました。去年沢山の命を奪った西日本豪雨を思うと、「雨」は、風情だとばかりは言っていないでしょう。

せめて、今年は、風情のある「雨」との出逢いを楽しめるような、そんな空模様であることを祈りたいと思います。季節柄「雨」を表すことば、「雨」にまつわることばを一つでも多く知っていると、梅雨の頃になれば、お子さんとの雨の日の会話も更に楽しめるのではないかと思うのです。

例えば、「七夕に降る雨は、七夕雨（たなばたあめ）って言うんだよ。1年に1度、やっと出会えた織姫と彦星が別れを惜しむ、または会うことができずに悲しむ涙が雨になって降るんだって。だから、洒涙雨（さいるいう）とも言うんだって」

・・・などと、「雨」にまつわる話ができたら、なんだか素敵ですよ。

ちなみに、『お天気歳時記』（著者 大野義輝・平塚和夫 雪華社）によれば、「東京の天気統計では、7月7日は、晴れ18%、くもり37%、雨45%との確率で、晴れることは圧倒的に少ない」ということです。

雨の日に、親子で、令和元年7月7日の天気の予想を試してみるのも、楽しいかも知れませんね。【A】

〇メルマガで取り上げて欲しい内容やご感想など、下記アドレスにお寄せいただければ嬉しく思います。（アドレス登録又は配信停止もこちらからどうぞ(^_^)）

mailto:kosodatem@pref.iwate.jp

〇メルマガのバックナンバーを当センターHPで閲覧することができます。

アドレスはこちら

「まなびネットいわて」(<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/>) > 「発行物・刊行物」
> すこやかメルマガ

これからも、どうぞよろしく申し上げます(^_^)/

【発行】

岩手県立生涯学習推進センター

025-0301 花巻市北湯口 2-82-13

TEL 0198-27-4555

URL:<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/> 「まなびネットいわて」で検索